

令和 8 年度
加工原料乳生産者補給金単価等
算定要領及び説明参考資料

畜産局

令和 7 年 12 月

目次

算定要領	頁
[1] 加工原料乳生産者補給金単価――――	1
[2] 集送乳調整金単価――――	2
[3] 総交付対象数量――――	4
参考資料	
[1] 加工原料乳生産者補給金単価――――	7
[2] 集送乳調整金単価――――	10
[3] 総交付対象数量――――	13

[1] 加工原料乳生産者補給金単価

(考 え 方)

加工原料乳地域（生産される生乳の相当部分が加工原料乳であると認められる地域＝北海道）における生産費及び乳量の各々の変動率から求めた「生産コスト等変動率」を「前年度の補給金単価」に乗じて、「当該年度の補給金単価」を算定する。

(算 式)

・ 当該年度の補給金単価＝前年度の補給金単価×生産コスト等変動率

・ 生産コスト等変動率

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0}$$

C_1 / C_0 : 搾乳牛 1 頭当たり生産費の変動率

Y_1 / Y_0 : 搾乳牛 1 頭当たり乳量の変動率

(算定要領)

1 前年度の補給金単価

令和 7 年度補給金単価 : 9.09 円/kg

2 生産コスト等変動率

生産コスト等変動率については、搾乳牛 1 頭当たり生産費の変動率を、搾乳牛 1 頭当たり乳量の変動率で除することで算出する。

(1) 搾乳牛 1 頭当たり生産費の変動率

農林水産省統計部の「牛乳生産費調査」による搾乳牛 1 頭当たり全算入生産費について、

ア 飼養頭数規模別飼養頭数ウェイトによる加重平均

イ 副産物価額のうち子牛及び乳牛償却費にかかる廃用牛について、各年の値をその年を含む直近 7 年平均に置き換え

ウ 効率的に集送乳が行われる場合の集送乳経費、販売手数料及び企画管理労働費の加算を行い、以下により物価・労賃の動向等を織り込んで算出した生産費（修正生産費）の当年を含む過去 3 年の平均（令和 4 年～令和 6 年生産費の平均）を、前年を含む過去 3 年の平均（令和 3 年～令和 5 年生産費の平均）で除することで算出する。

（ア）物財費等の各費目については、原則として、当年を含む過去 3 年の平均生産費を直近（令和 7 年 8 月～10 月）に、前年を含む過去 3 年の平均生産費を 1 年前の同時期（令和 6 年 8 月～10 月）の水準に物価修正して算出する。

- (イ) 家族労働費については、厚生労働省の「毎月勤労統計調査」の「北海道、製造業、5人以上」の労働費を基に、牛乳生産費統計の酪農家1人当たりの労働時間まで労働時間を加算等して算出した労賃単価により評価して算出する。
- (ウ) 地代及び資本利子については、当年を含む過去3年の平均生産費は直近年（令和6年）に、前年を含む過去3年の平均生産費は1年前（令和5年）の水準に評価して算出する。
- (エ) 企画管理労働費については、「牛乳生産費調査」に基づく企画管理労働時間に家族労働費と同額の労賃単価を乗じて算出する。

(2) 搾乳牛1頭当たり乳量の変動率

「牛乳生産費調査」による搾乳牛通年換算1頭当たり実搾乳量を飼養頭数規模別飼養頭数ウェイトにより加重平均し（修正乳量）、その当年を含む過去3年の平均（令和4年～令和6年乳量の平均）を、前年を含む過去3年の平均（令和3年～令和5年乳量の平均）で除することで算出する。

(試算)

令和8年度補給金単価

令和7年度単価

9.09 円/kg

×

生産コスト等変動率

1.0027

=

9.11 円/kg

[2] 集送乳調整金単価

(考え方)

全国の指定事業者における加工原料乳の集送乳経費及び集送乳量の各々の変動率から求めた「集送乳コスト等変動率」を「前年度の調整金単価」に乗じて、「当該年度の調整金単価」を算定する。

(算式)

・ 当該年度の調整金単価＝前年度の調整金単価×集送乳コスト等変動率

・ 集送乳コスト等変動率

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0}$$

C_1/C_0 : 加工原料乳の集送乳経費の変動率

Y_1/Y_0 : 加工原料乳の集送乳量の変動率

(算定要領)

1 前年度の調整金単価

令和7年度調整金単価：2.73 円/kg

2 集送乳コスト等変動率

集送乳コスト等変動率については、加工原料乳の集送乳経費の変動率を、加工原料乳の集送乳量の変動率で除することで算出する。

(1) 加工原料乳の集送乳経費の変動率

仕向け比率により推定した令和3年度から令和6年度における全国の加工原料乳の集送乳経費（クーラーステーション経費を含む。農林水産省畜産局牛乳乳製品課調べ）について、

ア 当年を含む過去3年（令和4年度～令和6年度）の平均集送乳経費を直近（令和7年8月～10月）に、前年を含む過去3年（令和3年度～令和5年度）を1年前の同時期（令和6年8月～10月）の水準に物価修正し（修正集送乳経費）、

イ 令和4年度～令和6年度の修正集送乳経費の平均を令和3年度～令和5年度の修正集送乳経費の平均で除することで算出する。

(2) 加工原料乳の集送乳量の変動率

仕向け比率により推定した令和3年度から令和6年度における全国の加工原料乳の集送乳量（農林水産省畜産局牛乳乳製品課調べ）について、当年を含む過去3年（令和4年度～令和6年度）の平均を、前年を含む過去3年（令和3年度～令和5年度）の平均で除することで算出する。

(試算)

令和8年度調整金単価

令和7年度単価

2.73 円/kg

×

集送乳コスト等変動率

1.0375

=

2.83 円/kg

[3] 総交付対象数量

(考え方)

総交付対象数量は、乳製品向けに必要な生乳供給量として、脱脂粉乳・バター等、生クリーム等の液状乳製品及び国産ナチュラルチーズの消費量等から推定される推定乳製品向け生乳消費量から、カレントアクセス輸入量およびT P P 11、日E U ・E P A関税割当数量を控除して算定する。

(算式)

$$L = D3 - \text{カレントアクセス輸入量} - \text{T P P 11、日E U ・E P A関税割当数量}$$

$$D4 = Q - (D1 + D2 + L)$$

L : 総交付対象数量

Q : 推定生乳生産量

D1 : 推定自家消費等量

D2 : 推定牛乳等向け生乳消費量

D3 : 推定乳製品向け生乳消費量

D4 : 要調整数量

(算定要領)

1 推定生乳生産量

最近の経産牛頭数等の推移から推定される令和8年度の各月の経産牛頭数に、同年度の各月の推定一頭当たり乳量を乗じ、各月の推定生乳生産量を合算して算出する。

2 推定自家消費等量

最近の動向を考慮して算出する。

3 推定牛乳等向け生乳消費量

過去10年間の国民1人当たり実質民間最終消費支出及び飲料支出に占める牛乳類支出の割合を変数として推定される令和8年度の国民1人当たり牛乳等向け生乳消費量（学校給食用を除く）に同年度の推定総人口を乗じたものに、学校給食用生乳消費量として見込まれる数量を加えて算出する。

4 推定乳製品向け生乳消費量

過去10年間の国民1人当たり実質民間最終消費支出、バター、脱脂粉乳、生クリーム、濃縮乳、脱脂濃縮乳及び国産ナチュラルチーズ消費量を変数として推定される令和8年度の国民1人当たり乳製品向け生乳消費量に、同年度の推定総人口を乗じて算出する。

5 要調整数量

推定生乳必要量と推定生乳生産量の差であって、国産乳製品の需給均衡を図るための調整に必要な数量とする。

(算定結果)

(単位：万トン)

● 推定生乳生産量	Q	:	737
● 推定自家消費等量	D1	:	4
● 推定牛乳等向け生乳消費量	D2	:	383
● 推定乳製品向け生乳消費量	D3	:	347
● 要調整数量	D4	:	25
● 総交付対象数量	L	:	325

参考資料

[1] 加工原料乳生産者補給金単価

1 搾乳牛1頭当たり生産費の変動率の算定

C_1 (当年を含む過去3年の修正生産費)

令和4年修正生産費	984,775 円/頭
令和5年修正生産費	979,371 円/頭
令和6年修正生産費	966,165 円/頭
平 均	976,770 円/頭

C_0 (前年を含む過去3年の修正生産費)

令和3年修正生産費	947,357 円/頭
令和4年修正生産費	972,478 円/頭
令和5年修正生産費	969,203 円/頭
平 均	963,013 円/頭

C_1/C_0 (搾乳牛1頭当たり生産費の変動率)

$$\frac{976,770 \text{ 円/頭}}{963,013 \text{ 円/頭}} = 1.0143$$

2 搾乳牛1頭当たり乳量の変動率の算定

Y_1 (当年を含む過去3年の修正乳量)

令和4年修正乳量	9,413 kg/頭
令和5年修正乳量	9,246 kg/頭
令和6年修正乳量	9,370 kg/頭
平 均	9,343 kg/頭

Y_0 (前年を含む過去3年の修正乳量)

令和3年修正乳量	9,050 kg/頭
令和4年修正乳量	9,413 kg/頭
令和5年修正乳量	9,246 kg/頭
平 均	9,236 kg/頭

Y_1/Y_0 (搾乳牛1頭当たり乳量の変動率)

$$\frac{9,343 \text{ kg/頭}}{9,236 \text{ kg/頭}} = 1.0116$$

3 生産コスト等変動率の算定

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0} \quad (\text{生産コスト等変動率})$$

$$\begin{array}{ccc} \text{搾乳牛 1 頭当たり生産費の変動率} & \text{搾乳牛 1 頭当たり乳量の変動率} & \\ 1.0143 & \div & 1.0116 \quad = \quad 1.0027 \end{array}$$

○算定基礎

C1

(単位:1頭当たり円)

推定生産費 区 分	R4年生産費		R5年生産費		R6年生産費	
		修正生産費		修正生産費		修正生産費
物財費	871,326	894,542	889,158	885,206	885,397	874,516
うち飼料費	472,858	519,894	504,769	507,295	522,292	513,673
うち乳牛償却費	186,831	146,126	160,020	139,948	134,795	124,382
飼育労働費	133,463	157,622	137,219	159,576	140,877	157,448
うち家族労働費	96,471	115,425	95,976	114,044	97,779	112,247
費用合計	1,004,789	1,052,164	1,026,377	1,044,782	1,026,274	1,031,964
副産物価額	170,797	121,674	158,330	119,610	146,096	120,607
生産費	833,992	930,490	868,047	925,172	880,178	911,357
地 代	20,321	20,278	19,650	19,668	20,600	20,600
資本利子	32,352	8,107	28,260	6,757	27,176	6,316
全算入生産費	886,665	958,875	915,957	951,597	927,954	938,272
集送乳経費		9,837		10,171		9,998
販売手数料		13,821		15,323		15,616
企画管理労働費		2,242		2,280		2,279
試算値		984,775		979,371		966,165

C0

(単位:1頭当たり円)

推定生産費 区 分	R3年生産費		R4年生産費		R5年生産費	
		修正生産費		修正生産費		修正生産費
物財費	802,444	873,569	871,326	898,536	889,158	891,315
うち飼料費	412,364	525,784	472,858	530,051	504,769	517,409
うち乳牛償却費	199,899	136,607	186,831	146,164	160,020	142,302
飼育労働費	129,270	150,638	133,463	153,574	137,219	155,347
うち家族労働費	95,349	112,630	96,471	113,907	95,976	112,545
費用合計	931,714	1,024,207	1,004,789	1,052,110	1,026,377	1,046,662
副産物価額	174,094	133,244	170,797	133,451	158,330	131,297
生産費	757,620	890,963	833,992	918,659	868,047	915,365
地 代	21,496	22,672	20,321	20,262	19,650	19,650
資本利子	32,693	9,111	32,352	7,998	28,260	6,648
全算入生産費	811,809	922,746	886,665	946,919	915,957	941,663
集送乳経費		9,458		9,526		9,967
販売手数料		12,937		13,821		15,323
企画管理労働費		2,216		2,212		2,250
試算値		947,357		972,478		969,203

Y1

(単位:1頭当たりキログラム)

	R4年 乳 量	R5年 乳 量	R6年 乳 量
修正乳量	9,413	9,246	9,370

Y0

(単位:1頭当たりキログラム)

	R3年 乳 量	R4年 乳 量	R5年 乳 量
修正乳量	9,050	9,413	9,246

注: ラウンドの関係上、試算値と内訳の合計が一致しない場合がある。

[2] 集送乳調整金単価

1 加工原料乳の集送乳経費の変動率の算定

C_1 (当年を含む過去3年の修正集送乳経費)

令和4年度修正集送乳経費	12,570,180 千円
令和5年度修正集送乳経費	11,831,489 千円
令和6年度修正集送乳経費	12,613,088 千円
平 均	12,338,252 千円

C_0 (前年を含む過去3年の修正集送乳経費)

令和3年度修正集送乳経費	12,317,962 千円
令和4年度修正集送乳経費	12,220,177 千円
令和5年度修正集送乳経費	11,499,179 千円
平 均	12,012,439 千円

C_1 / C_0 (加工原料乳の集送乳経費の変動率)

$$\frac{12,338,252 \text{ 千円}}{12,012,439 \text{ 千円}} = 1.0271$$

2 加工原料乳の集送乳量の変動率の算定

Y_1 (当年を含む過去3年の集送乳量)

令和4年度集送乳量	3,468,758 トン
令和5年度集送乳量	3,353,493 トン
令和6年度集送乳量	3,425,030 トン
平 均	3,415,760 トン

Y_0 (前年を含む過去3年の集送乳量)

令和3年度集送乳量	3,528,147 トン
令和4年度集送乳量	3,468,758 トン
令和5年度集送乳量	3,353,493 トン
平 均	3,450,133 トン

Y_1 / Y_0 (加工原料乳の集送乳量の変動率)

$$\frac{3,415,760 \text{ トン}}{3,450,133 \text{ トン}} = 0.990$$

3 集送乳コスト等変動率の算定

$$\frac{C_1}{C_0} \div \frac{Y_1}{Y_0} \quad (\text{集送乳コスト等変動率})$$

$$\begin{array}{ccccc} \text{加工原料乳の集送乳経費の変動率} & & \text{加工原料乳の集送乳量の変動率} & & \\ 1.0271 & \div & 0.990 & = & 1.0375 \end{array}$$

○算定基礎

C1

(単位：千円)

推定集送乳経費 区 分	R4年度集送乳経費		R5年度集送乳経費		R6年度集送乳経費	
		修正集送乳経費		修正集送乳経費		修正集送乳経費
集送乳委託費	9,471,294	10,158,600	9,276,435	9,805,346	9,947,499	10,227,044
単独集送乳経費	791,774	857,000	790,095	833,435	862,866	881,090
うち労務費	374,881	409,183	361,435	386,627	388,661	402,653
うち燃料費	125,113	133,996	135,203	136,731	130,298	128,044
CS経費	286,205	298,250	266,149	278,576	283,183	288,455
うち運営費	216,604	223,312	220,200	229,785	232,559	236,693
うち設備費	69,601	74,938	45,949	48,791	50,623	51,762
CS委託費	1,208,242	1,256,330	872,929	914,132	1,194,284	1,216,498
試算値		12,570,180		11,831,489		12,613,088

C0

(単位：千円)

推定集送乳経費 区 分	R3年度集送乳経費		R4年度集送乳経費		R5年度集送乳経費	
		修正集送乳経費		修正集送乳経費		修正集送乳経費
集送乳委託費	9,326,085	9,822,092	9,471,294	9,858,576	9,276,435	9,515,786
単独集送乳経費	803,981	858,842	791,774	835,710	790,095	812,445
うち労務費	385,424	407,663	374,881	394,975	361,435	373,145
うち燃料費	125,949	140,672	125,113	132,270	135,203	134,960
CS経費	254,055	281,444	286,205	292,880	266,149	273,489
うち運営費	182,088	202,446	216,604	219,370	220,200	225,814
うち設備費	71,967	78,998	69,601	73,510	45,949	47,675
CS委託費	1,217,956	1,355,585	1,208,242	1,233,011	872,929	897,459
試算値		12,317,962		12,220,177		11,499,179

Y1

(単位：ト)

	R4年度 集送乳量	R5年度 集送乳量	R6年度 集送乳量
集送乳量	3,468,758	3,353,493	3,425,030

Y0

(単位：ト)

	R3年度 集送乳量	R4年度 集送乳量	R5年度 集送乳量
集送乳量	3,528,147	3,468,758	3,353,493

注：ラウンドの関係上、試算値と内訳の合計値が一致しない場合がある。

[3] 総交付対象数量

○ 算定基礎

1 推定生乳生産量

年月	①24か月前 出生雌の 残存頭数	②繰り越し 経産牛頭数	③月初め 経産牛頭数 ③=①+②	④月間経産 牛減耗率	⑤経産牛頭数 ⑤=③×(1-④)	⑥経産牛1頭 当たり月間乳 量	⑦生乳生産量 ⑦=⑤×⑥	備 考
	頭	頭	頭		頭	kg	トン	
R7.1	18,102	821,300	839,402	0.023	820,300	770.7	632,176	
2	17,950	820,300	838,250	0.022	820,100	711.3	583,333	
3	17,641	820,100	837,741	0.022	819,554	807.0	661,411	
4	16,738	819,554	836,292	0.021	819,108	787.3	644,847	
5	17,651	819,108	836,758	0.019	820,586	808.5	663,438	
6	18,353	820,586	838,939	0.021	821,591	764.2	627,859	
7	18,745	821,591	840,336	0.022	821,941	746.8	613,824	
8	19,244	821,941	841,185	0.024	821,168	735.6	604,090	
9	19,476	821,168	840,644	0.026	819,028	708.6	580,397	
10	19,351	819,028	838,378	0.027	815,501	740.8	604,114	
11	19,208	815,501	834,709	0.027	812,430	720.1	585,069	
12	19,048	812,430	831,478	0.025	810,755	754.7	611,866	
R8.1	18,941	810,755	829,696	0.023	810,442	775.1	628,201	
2	19,021	810,442	829,463	0.023	810,346	715.4	579,738	
3	18,739	810,346	829,085	0.022	810,613	811.7	657,990	
4	16,987	810,613	827,600	0.021	810,594	791.8	641,846	
5	15,383	810,594	825,978	0.019	810,014	813.2	658,689	
6	14,581	810,014	824,595	0.021	807,543	768.6	620,703	
7	16,779	807,543	824,323	0.022	806,278	751.1	605,619	
8	20,402	806,278	826,680	0.024	807,009	739.9	597,117	
9	22,362	807,009	829,371	0.026	808,045	712.8	575,935	
10	21,976	808,045	830,021	0.027	807,371	745.1	601,561	
11	21,085	807,371	828,456	0.027	806,344	724.3	584,055	
12	21,055	806,344	827,399	0.025	806,779	759.1	612,397	
R9.1	21,352	806,779	828,131	0.023	808,913	779.6	630,653	
2	20,265	808,913	829,178	0.023	810,067	719.6	582,900	
3	19,529	810,067	829,596	0.022	811,113	816.4	662,214	
							R8年度計 737万トン	

(1) 24か月前出生雌残存頭数は、近年の残存率の動向と、各月の出生頭数の変動を考慮して推計した。

(2) 月間経産牛減耗率は、近年の減耗率の動向と、各月の変動を考慮して推計した。

(3) 経産牛1頭当たり月間乳量は、近年の経産牛1頭当たり年間乳量の動向と、各月の変動を考慮して推計した。

2 推定自家消費等量 D1

最近の動向を考慮して、4 万トンとする。

3 推定牛乳等向け生乳消費量 D2

$$\begin{aligned} D2 &= D2A + D2B \\ &= 349(348 \sim 350) \text{ 万トン} + 34 \text{ 万トン} \\ &= 383(382 \sim 384) \text{ 万トン} \end{aligned}$$

D2A : 推定牛乳等向け生乳消費量（学校給食用を除く）

$$\begin{aligned} D2A &= d2 \times N \\ &= 28.32(28.22 \sim 28.42) \text{ kg/人} \times 123,297 \text{ 千人} \\ &= 349(348 \sim 350) \text{ 万トン} \end{aligned}$$

d2 : 推定国民 1 人当たり牛乳等向け生乳消費量（学校給食用を除く）を、民間最終消費支出及び飲料支出に占める牛乳類支出割合から、回帰分析により算出。

（データ参照期間：平成 30 年 9 月を除く平成 28 年度～令和 7 年度）

N : 推定総人口（国立社会保障・人口問題研究所）

D2B : 学校給食用生乳消費量

最近の動向を考慮して、34 万トンとする。

4 推定乳製品向け生乳消費量 D3

$$\begin{aligned} D3 &= d3 \times N \\ &= 28.12 \text{ kg/人} \times 123,297 \text{ 千人} \\ &= 347 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

d3 : 推定国民1人当たり乳製品消費量（カレントアクセス輸入量およびT P P 11、日 E U ・ E P A 関税割当数量を含む）を、民間最終消費支出、脱脂粉乳消費量、バター消費量、液状乳製品消費量及び国産ナチュラルチーズ消費量から、回帰分析により算出。

（データ参照期間：平成30年9月を除く平成28年度～令和7年度）

5 総交付対象数量 L

$$\begin{aligned} L &= D3 - \text{カレントアクセス輸入量} \\ &\quad - \text{T P P 11、日 E U ・ E P A 関税割当数量（※令和7年度の関税割当枠の消化状況を考慮した令和8年度の推定消化数量）} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} &= 347 \text{ 万トン} - 14 \text{ 万トン} - 8 \text{ 万トン} \\ &= 325 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

6 要調整数量 D4

$$\begin{aligned} D4 &= Q - (D1 + D2 + L) \\ &= 737 \text{ 万トン} - (4 \text{ 万トン} + 383 \text{ 万トン} + 325 \text{ 万トン}) \\ &= 25 \text{ 万トン} \end{aligned}$$

（小数点以下の関係で合計値等は一致しない場合がある）

(参考)

生乳需給表

(単位：万トン、%)

	期首在庫 (バター・脱脂粉乳)	生産		輸入	供給計	需要	対前年比		期末在庫 (バター・脱脂粉乳)
			対前年比						
令和6年度									
(1) 自家消費		5			5	5			
(2) 牛乳等		388			388	388			
(3) 乳製品	61	345		442	848	781			67
合計	61	737		442	1,240	1,173			67
令和7年度見込									
(1) 自家消費		4	▲ 4.5		4	4	▲ 4.5		
(2) 牛乳等		385	▲ 0.7		385	385	▲ 0.7		
(3) 乳製品	67	350	1.7	440	857	760	▲ 2.7		97
合計	67	740		440	1,247	1,150	▲ 2.0		97
令和8年度推定									
(1) 自家消費		4	1.7		4	4	1.7		
(2) 牛乳等		(382～384) 383	▲ 0.6		383	383	▲ 0.6		
(3) 乳製品	X	325		440	765+X	765	0.7		X
合計(生乳必要量)	X	713		440	1,152+X	1,152	0.2		X
生乳生産量		(736～738) 737	▲ 0.4						
要調整数量		25							

注1 要調整数量:推定生乳必要量と推定生乳生産量の差であって、国産乳製品の需給均衡を図るための調整に必要な数量

注2 () 内は推計値の上限と下限

注3 小数点以下の関係で合計値は一致しない場合がある

注4 在庫量は業界見通しを元に推計